

学年	単元名	児童	場所	指導者
2年	「まとまりに分けて、 お話を書こう」	2年 1組 19名	2年1組 教室	谷口 愛

育てたい資質・能力

◎国語科において育成を目指す資質・能力から本時にかかわる主な資質・能力

②新しい情報を、既にもっている知識や経験、感情に統合し構造化する力

(思考力・判断力・表現力等)

友達からもらったお話メモの感想やアドバイスからメモの内容を見つめ直し、読む人が楽しめるお話のつくりになっているかを考える力。

研究とのかかわり

研究内容2～「一単位時間における学習過程の改善＜本時の手立ての工夫＞」

～アクティブ化シートB-②

②対話重視～お話メモの内容を読み合い、よさやアドバイスを伝え合う

自分の作ったお話メモが楽しめるお話になりそうかを確認させたい。そのために、友達とペアでお話メモを読み合い、感想やアドバイスを伝え合う活動を取り入れた。楽しいお話にするためには、分かりやすさが求められる。「話のまとまりがつながっているか」と「文章の意味が分かるか」という2点に注目して読み合い、そうになっていない場合は、書き直しや付け加えをしてメモの質を高めていきたい。また、お互いのお話の良さを伝え合うことで、自分のお話に自信をもち、このあとの下書きを書く学習により意欲的に取り組むことができると考える。

1 単元について

(1) 単元の目標と評価規準

【単元の目標】

今までに読んだ物語や自分の経験などから想像を広げて書くことを決め、「初め」「中」「終わり」のまとまりのある短い物語を書くことができる。

本単元は、学習指導要領「2学年」の内容

- ◎【B 書くこと(1)イ】
自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
- 【B 書くこと(1)ア】
経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。
- 【B 書くこと(1)オ】
書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。

を受けて設定したものである。

本教材は、「初め」と「終わり」は教科書にある挿絵からお話を想像し、「中」は「初め」と「終わり」につながるように自分でお話を考えるようになっている。

そこで本単元では、物語における「初め」「中」「終わり」の構成を意識させ、それぞれがうまくつながることで、お話が完成することを実感させていく。さらに、できあがったお話メモを友だちと見せ合うことで、「初め」と「終わり」が同じでも、「中」が変わるとお

話の内容が変わってくる楽しさを感じ、お話作りに向けた意欲につなげていきたい。

【評価規準】

【国語への関心・意欲・態度】	【書く能力】	【言語についての知識・理解・技能】
<ul style="list-style-type: none"> ・読み手が楽しむことができるお話の作成に、意欲的に取り組もうとしている。 ・お話作りを楽しみながら取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て想像したことから書くことを決め、「初め」「中」「終わり」のまとまりのある短い物語を書くことができる。 ・物語を読み合い、感想を交流することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた物語を読み返して、誤字・脱字を直したり、句読点、助詞、かぎの使い方を正したりすることができる。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、この学習までに「こんなもの、みつけたよ」や「大ききなもの、教えた」の学習で「初め」「中」「終わり」を意識しながら書いたり、話したりしてきた。また、物語を読むときは、どの部分が「初め」「中」「終わり」なのかを意識しながら読んできた。そのため、「初め」「中」「終わり」にはそれぞれどんな文章や内容が書かれるのかということはおおかた理解している。しかし、想像したことを「初め」「中」「終わり」に分けて書くことは今回が初めてであることや、自分の考えを文章に表すことに苦手意識をもっている児童が多いことなどから、本単元ではメモ作りの段階で戸惑ってしまうことが予想される。そこで、導入の段階で、学級全体やペアで簡単なお話作りをする活動を設け、楽しみながらお話の作り方を把握させたい。また、文章は自分が読むことができればよいと考えている児童も多く、他の人が読むと内容が分かりにくい文章になっていたり、誤字・脱字が目立った文章だったりする。そこで、できあがったお話はみんなで読み合うという意識をもたせ、内容や文字に気を付けながらお話作りができるようにしていきたい。

(3) 指導の手立て

本単元は、「1年生となかよし大きくせん」の3回目と関連させて行う。「学級文庫の本が古くなり、困っている1年生のためにお話を作り、プレゼントする」という言語活動を設定し、指導を進めていく。そうすることで、「よく伝わるお話にしたい」「楽しいお話で1年生に喜んでもらいたい」という意欲が高まり、お話の内容がよりよいものになることにつながっていくと考える。また、単元の導入で学級・ペア・個人という3つの形態でのお話作りを、ゲーム要素を取り入れながら段階的に行うことで、楽しみながらお話作りの方法を覚えることができるようにした。本時では、お互いメモのよさやアドバイスを友達と伝え合うことでメモの内容を見直し、自分のお話に自信をもちながら下書きの活動に進むことができるようにした。黒板に「お話作りのコツ」を掲示し、進んでよさやアドバイスを伝えられるようにした。

2 単元の指導計画 【10時間扱い 本時6 / 10時間】

次	時	○学習活動	教師の評価規準（評価方法） ◇到達が不十分な児童への指導の手立て
一次	①	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生にお話をプレゼントすることを知り、学習の見通しをもつ。 ○今までに読んだ物語が「初め」「中」「終わり」に分かれていることを確認し、簡単なお話メモ作りを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 関「自分たちでお話を作り、1年生にプレゼントする」ことを理解し、意欲的に活動に取り組もうとしている。 (観察・発言・振り返りシート) ◇教科書に載っているお話の「初め」「中」

	む。	「終わり」を教師や友達と一緒に考える。
	お話の作り方をおぼえて、1年生にお話をプレゼントしよう。	
	② ○教師が出したテーマを基に、「初め」「中（出来事3つ）」「終わり」のまとまりのあるお話（メモ）をペアで作ったり、1人で作ったりして交流し、お話を作るには、お話のまとまりがつながっていることが大切であることを気付く。	㊦「初め」「中」「終わり」のまとまりのあるお話の作り方を確認し、楽しみながらお話を作っている。 （お話メモ・振り返りシート） ㊧お話作りでは、お話のまとまりがつながっていることが大切であることを気付いている。（発言・振り返りシート） ◇前時で作ったお話や友達の書き方を参考にさせ、教師や友達と一緒に考える。
二次	③ ○主人公の名前と人物像を考える。 ・ワークシートに主人公の情報を書き込んでいく。	㊨お話に出てくる人物の名前と人物像を決めている。（ワークシート） ◇自分が好きな本のキャラクターを思い出させたり、自分と比べさせたりして決める。
	④ ○「中」で起こる出来事を3つ考えてメモに書く。 ・教科書にある絵の他に2つのパターンの絵を見せ、どの世界のお話にするかを決めてから考える。	㊩「中」で起こる出来事を3つ考えることができている。（お話メモ） ◇今までに読んだ本を参考にしたり、自分の体験を思い出したりして、起きたら面白そうなことを考えさせる。
	⑤ 「中」の出来事につながるように「初め」と「終わり」を考え、メモに書く。 ・自分が選んだ絵に合うようにメモを作る。	㊪「中」につながるように「初め」と「終わり」を考えることができている。（お話メモ） ◇「初め」には主人公の紹介や出来事の原因になったこと、「終わり」には出来事があったてどうなったかを書けばよいことを伝える。
	⑥ 本時 ○考えたお話メモをペアで紹介し合い、感想やアドバイスを伝え合う。 ・感想やアドバイスを聞いて、付け加えるところがあったら、お話メモに書き込む。 ・話し合いを通して、これからどんなお話にしていきたいと思ったかを全体で交流する。	㊫友達のメモの内容を見たり、聞いたりして、よいところや読みやすい書き方になっているかを伝え合い、メモを見直すことができる。（発言・お話メモ） ◇「初め」「中」「終わり」の順番に書かなくてはならないことが書いてあるかを教師と一緒に確認する。
	⑦ ○「初め」「中」の下書きをする。 ・早くできた人は「中」挿絵を描く。	㊬メモを基に、人物の紹介や人物がしたこと、会話などを考えて、「初め」「中」の下書きをすることができる。 （ワークシート） ◇人物が「したこと」や「話したこと」を書いていくとよいことを伝える。
	⑧ ○「中」「終わり」の下書きをし、見直しをする。 ・早くできた人は「中」の挿絵を描く。	㊭「中」につながるような「終わり」の下書きを書くことができる。 （ワークシート） ◇教科書の「終わり」の部分の参考をしたり、自分が読んだことのある物語の「終わり」の部分の思い出させたりする。

	⑨	○読み聞かせの練習をしながら誤字・脱字がないかを確認し、清書をする。早くできた人は表紙を書く。	㊦できあがったお話を声に出して読み、わかりにくいところや誤字・脱字を直して清書をしている。(絵本用紙) ◇教室に掲示している見直しのコツを参考にしして見直すよう促す。
三 次	⑩	○できあがったお話を1年生に読み聞かせ、1年生の感想を聞く。	㊦友達の書いた作品を聞き、感想を書くことができる。(感想カード) ◇自分の作ったお話との違いや面白かったところを書くことよいことを伝える。

3 本時の学習

①本時の目標

友達のメモの内容を見たり、聞いたりして、よいところや読みやすい内容になっているかを伝え合い、メモを見直すことができる。【書く能力】

②本時の展開【10時間扱い 6/10時間目】 *一単位時間レベル【対話重視】

	子どもの活動	思考	□教師の働きかけ ◆評価(評価の方法)
導 入 5 分	1 前時までの振り返りをする。 ・ワークシートを見て、「初め」「中」「終わり」のメモを作ったことを思い出す。 2 本時の学習内容の確認をする。 ・お話メモを紹介し合い、よさを伝えたり、もっとよくなりそうなどところがないか相談したりすることを伝える。 3 本時の課題を確認する。	全体 全体 全体	<input type="checkbox"/> 「1年生が楽しんでくれるようなお話になりそうですか。」 <input type="checkbox"/> 1年生に向けてお話を作することを意識させる。 <input type="checkbox"/> 今までの頑張りを認め、もっとよい内容になるように相談し合う場であることを確認する。
「お話メモ」を見せ合い、たのしいお話になりそうか話し合おう。			
展 開 33 分	4 教師の作品メモを例に挙げ、話し合いの仕方を確認する。 ・隣の人と話し合い、時間が来たらペアを変える。 ・発表者はお話メモを見せながら内容を説明する。 ・聞き手は「お話のまとまりがつながっていること」と「文の意味が分かること」の2点を意識して聞き、感想やアドバイスを伝える。 ・発表者は取り入れたいアドバイスをお話メモに書き込む。 5 話し合いをする。 ・「自分がお世話したモルモットが登場するところが面白いね。」 ・「どうして驚いたのか理由を書くことよいよ。」 ・「出来事が2つしかないから、もう一	全体 ペア	<input type="checkbox"/> 教師のメモを全体で読み、添削することで気を付けたいことを確認し、話し合いの中でも意識するように伝える。 <input type="checkbox"/> 楽しかったことや真似したいことなど、よいところは積極的に伝えるように促す。 *話し合いの内容を忘れてしまった児童には黒板を見るように伝え、的確な感想やアドバイスができるようにする。それらを受けてメモを見直す時間を十分に確保する。

	つ考えてみようよ。」		◆友達からの感想やアドバイスを受けて、お話メモの内容を見直すことができている。(発言・お話メモ)
終末7分	6 全体で今回の学習を振り返る。 ・「初めは歩いて旅をすることにしていたけど、〇〇さんの話を聞いて、自転車に乗ることにしました。」 ・「驚いた理由を付け加えます。」	全体	□振り返りカードに話し合いの前と後では、どんなところが変わったかを書き、交流する。
「お話のまとめりがつながっていること」と「文のいみが分かること」ができること たのしいお話になるね			
	7 次時の確認をする。 ・次回、「初め」「中」の部分の下書きをすることを確認する。	全体	

③本時の評価

◇評価規準の具体 (評価方法～観察, 発言, お話メモ)

【書くこと】

十分に満足できる (A): 友達からの感想やアドバイスを受けて分かりやすく、楽しいお話メモにすることができている。

おおむね満足できる (B): 友達からの感想やアドバイスを受けて分かりやすく、読みやすいお話メモにすることができている。

努力を要する児童への指導: 「初め」「中」「終わり」に書かれていることを見て、話がつながっているかを一緒に確認する。